

シュンギク (キクナ)

(キク科)

寒い冬でも簡易な保温で収穫ができる。
ハウスなどの保温施設があるとよい。

		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型														
春	ま	き				○	—	■						
秋	ま	き	■								○	○	○	■

1) 適地

有機物に富んだ軽い土がよい。酸性に弱いので、石灰で矯正する必要があります。

2) 品種

葉の形から大葉、中葉に分けられます。大葉は中国系、中葉は日本系の品種です。つみ取り用品種は茎が伸びやすく再生力が強いので、下葉を残してつみ取るとすぐに再生してきます。

抜きとり用：大葉、株張り中葉、さとにしき

摘みとり用：きわめ中葉、さとゆたか

3) 作り方

抜きとり品種は直播しますが、摘みとり品種は育苗を行います。

【育苗】播種の1か月前に1㎡当たり苦土石灰 150g を施用し、深く耕します。その後高度化成肥料を1㎡当たり 30g 施用し軽く耕して表面を丁寧にならします。5cm 間隔に浅く播き溝を付け丁寧に播種します。

【圃場の準備】1㎡当たり堆肥2kg、苦土石灰 150g、BMようりん 50g を施用し、よく耕します。幅 140cm の畝を立て、1㎡当たり高度化成肥料 80g を畝の表面に施し、混ぜながら表面をならします。

【播種】春播きは4月上旬に、秋播きは9～10月に播種します。種子には発芽抑制物質が含まれていますので、流水に一晩浸漬しておきます。シュンギクの種子は発芽に光を必要としますので、覆土はできるだけ薄くなるように丁寧に行います。覆土を薄くするため覆土してから灌水すると種子が洗われて出てきますので、灌水してから覆土を行うとよいでしょう。直播は条間 20cm の2条播きにします。

【定植】育苗して本葉4枚程度になった苗を株間 20cm、条間 25cm の3条千鳥植えにします。穴あきマルチを張って定植する場合は、1穴1株とします。

【間引き】抜きとり収穫品種で直播したものは本葉2～3枚の時に混み合っているところを 10cm 間隔に間引きます。

【除草】移植の場合は活着した頃、直播の場合は本葉3～4枚の頃に中耕し、雑草を抑えます。マルチを張って定植している場合は、特に除草の必要はありません

【追肥】定植や播種の1か月後に1㎡当たり高度化成肥料 20g を施します。収穫の5日前頃に薄い液肥を頭上からかけると品質がよくなります。マルチを張っている場合は、市販の液肥を 300 倍程度に希釈してマルチ上から施用するか、高度化成肥料を株

間へ穴肥します。

【灌水】乾燥に弱いので、畑がよく乾いているときには散水チューブで灌水をします。高温期に灌水不足になると、芯黒（カルシウム欠乏）が出て商品価値が著しく低下します。

【保温・防寒】摘みとり品種は12月中旬からトンネルをしておくで冬の間も収穫ができます。寒冷紗や不織布で覆っておくだけでも効果があります。ハウス内で栽培している場合には、晴天日は適宜換気し、徒長しないようにしましょう。

【収穫】草丈が20cm程度になったら収穫ですが、抜きとり用は大きくなったものから間引き収穫しましょう。摘みとり用は下葉を3枚程度残して収穫すると、残した葉の付け根から側枝が出てきて長い間収穫を続けることができます。春播きはトウ立ちしやすいので、トウ立ちしたものは抜き取ってしまいましょう。



4) 病虫害防除

病害では炭疽病、べと病があります。定期的に防除することで予防に努めます。害虫ではネキリムシ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類の被害があります。ネキリムシ類は定植した苗の地際を食べ、莖を倒します。早朝、莖が倒れているところの土を掘ると虫がいますので捕殺します。アブラムシ類やハモグリバエ類の被害は、秋や春先、初夏に多くなりますので、適宜観察して防除しましょう。